

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100875		
法人名	有限会社 九州松栄産業		
事業所名	黒髪しょうぶ苑 ~ 1F		
所在地	熊本県熊本市中央区黒髪5丁目4番30号		
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成 27年 3月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成26年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

洗面台・クローゼット付の広い居室で思い思いに過ごされる中でも、掃除・洗濯干し・洗濯たたみ・食事の準備などを生活リハビリとして取り入れている。また、お花を植えたり、お散歩、本館との合同レクレーションを通して、入居者以外の方との交流もさかんである。
立地条件も、街に近いわりに緑に囲まれ静かな環境であることに加え、周囲に熊本大学や住宅地に囲まれており、子供や若者たちとの接点が増えてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では現在、残存機能維持のため生活リハビリに取り組んでいます。具体的には、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、その他掃除や窓ふき、草刈りなど、利用者一人ひとりのその日の体調を考慮しながら、支援を行っています。またもう一つ、多彩な催しを行っています。賀寿のお祝い会では、美容学校の生徒さんのボランティアでファッションショーを行ったり、クリスマス会では中学・高校の合唱部が出演し、「ジングルベル」や「きよしこの夜」などのクリスマスソングや、「赤とんぼ」や「われは海の子」などの日本の四季を感じさせる歌を披露しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきその人らしく自己決定の基本生活を送れるように支援している。 また、グループホームの理念としてカンファレンスを行いながらケアの統一を図っている。	事業所は、「私たちは、あなたの気持ちに寄り添い、家族の一員として敬い、慈しみ、喜怒哀楽をともに感じていきます。」という基本理念を掲げています。利用者一人ひとりが、その人らしく生きられるよう自己決定に重きを置いた個別ケアを目指している。	理念は玄関ホール正面に掲示されており、いつでも見ることができます。平易な言葉で綴られていますが、とても奥が深いように思います。定期的に共有・実践の確認を行い、より質の高いサービスを目指して欲しいと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加したり、苑での行事へ招待したり、買い物散歩のときなど挨拶をかわしたりしている。	自治会への入会はないということであるが、地域の行事である清掃活動には、積極的に参加している。事業所の近くには熊本大学や桜山中学校があり、そこで行われるすずかけ祭りや体育祭には、利用者ともども見学に出かけている。また、毎週水曜日の夜に行われている町内バレーボールには、たくさんの職員が参加している。	運営推進会議等で地域の情報収集に努め、事業所として何か出来ることはないか、まずは可能なところから取り組んで欲しいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に行っている勉強会や研修・日々の積み重ねをふまえ、運営推進会議などを通して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回奇数月に開催し、現状報告や課題取り組みなどを報告し、意見をいただいている。	運営推進会議のメンバーは、外部から自治会長(民生委員も兼務)、老人クラブ会長、地域包括支援センター職員、利用者の家族等となっている。会議の基本的な内容としては、利用者の状況や事業所の取り組み等について報告し、意見や助言をもらっている。また、事業所が定期的におこなっている勉強会や研修の内容についても、この場で発信するようにしている。	今後は、メンバーの方からもこれまでの貴重な経験や、知識を披露してもらうなどして、運営方法にも工夫を取り入れてみてはどうでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターより参加されており、助言をいただいたり、分からないことがあったときは、市役所の方に相談をしている。	市との連携として集団指導に出席したり、市が派遣している介護相談員の受け入れをおこなっている。分からない点や判断に迷うことがあれば、その都度担当部署に連絡を入れ、指導を仰いでいる。また、地域包括支援センターとの関係も大事に考えており、必要な助言や勉強会等の指導も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵で困ってしまうことも拘束と理解している日常的な施錠、身体拘束はもちろんだが、スピーチロックも行わないように気を付けている。	事業所全体としてのマニュアルを作成しており、毎年1回は勉強会を行っている。その他にも、新聞記事を利用したり、外部研修会に参加した場合などは、全職員に周知徹底を行っている。職員からの聞き取りでも、「座って下さい」「待っていて下さい」「じっとして下さい」などの言葉の拘束にも注意しているということであった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	苑での勉強会や、研修等で学んでいる。入浴時にボディーチェックを行なっている。身体的な虐待以外でも、表情や行動などから考えることができるように、観察力を養うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会で学ぶことはあったが、今までに活用する機会がなかった。(対象者がいなかった)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語を使わず、早口にならないように、わかりやすい言葉で説明するように心がけている。また、疑問点など質問しやすい雰囲気を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、気兼ねなく意見を伺えるようにしている。また、面会時などに現状報告や要望を伺うようにしている。	2ヶ月に1回受け入れている介護相談員による利用者からの聞き取りや、日頃の家族の面会時、また家族会などでは、気になっている点や要望はないか聞くようにしている。その他にも意見箱の設置や、第三者苦情処理機関のポスター掲示も行っている。	家族の立場からすれば、思っているもなかなか本当の気持ちは言いにくいと思います。常に謙虚に耳を傾ける姿勢と、話し易い雰囲気づくりにこれからも取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで出た意見や、対策などは、各委員会やリーダー会議ににかけて、苑長に報告している。また、必要に応じて苑長に報告し、実戦に至ることもある。	毎月行っているミーティングでは、意見や要望を聞く機会を設けている。職員の話からも、意見や要望が言い易い、風通しの良い職場であることが聞かれた。また、苑長も職員一人ひとりと面談する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心ができるような苑内研修を行っている。提案に対しては検討し、やりがいや達成感を感じてもらえるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内では、月1回の勉強会とその時に応じたスキルアップ勉強会を行っている。苑外研修にも出来るだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの運営協議会、黒髪校区事業所懇談会などに参加しており、連絡を取り合ったりしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やご本人の要望や不安を伺い、ご本人の状況を把握してうえでその情報を職員全体で把握するようにしている。それにより、個別の対応が可能となり信頼関係が築けるようになるため、不安感も軽減する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、施設見学時、及び入居されてからも、相談や要望を聞く機会を設け、説明しできる限りの要望に応え、信頼関係を築けるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時より、ご本人の身体状況を含めた情報収集を行い、本人の能力を見出したうえで、初期プランを作成し1週間程度は日中夜間の申し送りを密にする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とともに食事の準備をしたり、洗濯物を畳んだり、お互いに支えあう関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、家族と共に支援できるように日頃の生活状況等を伝え、協力を得て一緒に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続に心がけ、面会時はゆっくりとした雰囲気の中で出来るように環境づくりをしたり、地域の行事に出かけるなどの支援をしている。	訪問した当日も利用者の甥の方が来苑されていた。他にも福岡や遠方からこまめに面会に来られる家族もおられるとの事だった。事業所としては、これからは家族や知人などが気軽に訪ねて来られる雰囲気づくりに力を注ぐ意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立した方が出ないように、目配り気配りをし、職員が架け橋になるようにしている。また、レクレーションなどを通じてお互いのコミュニケーションが取れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も当施設へ遊びに来ていただけるように、また、職員が面会に行けるような声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で話をしながら、希望を伺ったり本人の思いをくみ取るようにしている。意思疎通の困難な方は家族に話しを伺ったり、本人の表情や行動の変化に気を付けるようにしている。	日々の係わりの中でコミュニケーションを大事にし、表情や言動の変化に気を配り、思いや意向の把握に努めている。職員の話では、どんな時でも笑顔を忘れず、飛び込んで行くようにしているそうで、そういう中から利用者の思いや意向の把握につながることもあったと聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族ご本人の話をもとに把握するように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の排泄確認や午前と午後のバイタル測定により、健康管理に注意し、日中夜間の申し送りや情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問時に移行などを確認し、担当職員がモニタリングを行い、リーダーがプランを見直している。状態の変化の変化を踏まえ、現状に即した介護計画であるように心がけている。	介護計画は、家族の意向を確認した上で、主治医の意見書や場合によっては看護師などの意見も取り入れながら作成するようにしている。事業所では、担当制を取り入れており、モニタリングは担当職員が行い、プランの見直しについてはリーダー職員が行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を行い、普段と違った様子や発語などを記録するようにしている。また、対応に対する反応も残すようにしている。介護計画の見直しは担当を中心にカンファを行い実行している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、その時に必要なニーズに対応していくように、心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや消防機関などの協力を得て、安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望に沿ったかかりつけ医とし、入居時に協力医の説明を行っている。ほとんどの方が訪問診療を受けているが家族と共に定期的に外来受診をしている方もいる。緊急時はもとより日常の健康管理に関しても、主治医やご家族と連絡を密にとり、主治医とご家族の橋渡しの役割に努めている。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診をしている。かかりつけ医受診、専門医受診ともに家族の対応が基本となっている。事業所の協力医の場合、訪問診療が可能だったり、緊急時に適切な支持を仰ぐことが出来ることで、多くの利用者が協力医を主治医をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調の変化等気づきがあれば、看護師はもちろん他の職員にも伝え、情報を共有し早急な対応が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努め、安心して治療ができるように連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携体制や重度化・看取りに関する指針を説明している。家族、本人にとっても大切なことなので、職員の意識の統一を図り、家族や主治医と話し合いながら、万全の態勢で支援ができるように心がけている。	今までのところ、看取りの実績はない。重度化及び看取りに関する事業所としての方針は文書化されており、契約時に説明を行っている。	看取りケアの重要性が指摘されています。医療機関の協力、家族の協力・理解、職員のスキルアップ等など、日頃から準備を進めて欲しいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、主治医に連絡が取れるような体制になっている。急変や事故の対応には不安はあるが、定期的に行われている勉強会に参加することにより、確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に行われており、10月にはご利用者様を含めた避難訓練を行った。また、災害時などは当苑が避難場所として大きな役割を担うと思われる。	消防避難訓練は年に2回行われている。うち1回は消防署の指導のもと、また1回は夜間を想定して行っている。同法人には、隣接して別事業所があり、合同での訓練となっている。訓練は、全職員が参加して行われている。	今後は、地域の協力体制づくりにも取り組んでほしいと思います。まずは運営推進会議メンバーへの訓練の参加を呼びかけてみてはどうか。訓練を体験してもらったところから始めるのも一つの方法だと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちに寄り添いながら、声掛けのトーンなどに配慮し、傾聴に努めている。また、生活歴を手繰ることにより個別のケアに取り組んでいる。	人生の先輩に対して失礼のない言葉使いをすることが、基本という話があった。トイレ案内時や介助時の声掛け、また入浴時に同性の対応を希望される場合など、利用者の要望に添うことが人格の尊厳につながるという事であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せる環境に努め、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた支援介護を行い、その人らしい生活が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時など、一緒に洋服選びをし身支度をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的にし好調査を行っている。また、食べられない食材があるときには、別の食材を使ったり、ミキサーや刻み、トロミ付など個人に合わせ対応している。食事は職員も同じテーブルで食べている	事業所には栄養課があり、専門の職員が栄養士のメニューを基に調理を行っている。また定期的に嗜好調査も行ない、より食事が楽しみなものになるよう支援している。訪問調査日当日の昼食と一緒に頂きましたが、とても穏やかで、皆さん介助なしで自分のペースでの食事風景であった。また食事前には、飲み込み力アップの為に体操も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を使用し、個々の能力にあった食事を提供している。また、摂取状況や摂取量を観察し、栄養バランスのとれた食事ができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立を促し、できない方は介助し、毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援し排泄パターンや排泄量を観察し、その人に合った排せつ介助を行っている。	排泄が完全に自立している方もおられ、一方で尿意や便意がない利用者もおられる。できるだけトイレでの排泄を支援しようということで、時間毎の声掛けと同時に利用者一人ひとりの、お尻を上げる、うろうろする、座らなくなる、などの固有のサインを見落とさないよう、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事やバランスのとれた食事を提供し、散歩や体操などを始め、体を動かすように支援している。慢性の便秘の方には主治医と相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は出来るだけ本人の希望に合わせている。入浴中の時間も体調を見ながらゆっくりと入っていただいている。	利用者のその日の体調にもよるとのことであるが、基本的には週に3回のペースで入浴支援を行っている。入浴方法は個浴で、お湯は利用者毎に入れ替えている。足拭きマットも一人ひとり交換している。浴室には、バスタブが2個設置されており、仲良し同士2人で入浴される場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思、希望に合わせて、休息・就寝していただいている。また、寝具環境や、室内環境にも配慮し、気持ちよく休まれるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方を把握し、誤薬が起こらないようにトリプルチェックを行っている。また、薬の変更などはその都度記録を残し、申し送りを徹底している。薬の作用・副作用に関しては、勉強会や使用中のものであれば情報書をファイリングしてあるので、いつでも、誰でも見ることが出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に歌を歌ったり、洗濯物を畳んだり、その人の能力を生かした役割を分担している。週1回の本館との合同レクレーションやお誕生日会、生け花教室などで楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事などは事前にアンケートを取っている。また、本人が、希望される外出に関しては、家族に連絡を入れて相談したり、近隣であれば職員と散歩を兼ねて外出している。	外出支援については、花見ドライブ、コスモス見学、銀杏見学などの年間計画、また希望を聞いての支援、その他にもストレス解消等を兼ねての近隣の散歩などに取り組んでいる。ただ、それだけでは十分ではないと考えており、より充実させる必要があるとのことである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力と家族の話し合いで支援している。購入したいものがあれば職員と一緒に買い物に出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人の敬愛電話や苑の電話を使用し連絡を取っている。また、遠くの家族に近況報告や本人の直筆の手紙や写真をやりとりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごしていただくために明るさや、室温湿度の管理に注意している。季節の草花を飾るなど、季節感をあじわせるように心がけている。また整理整頓や掃除など衛生的にも配慮している。	利用者が集われるデイルームは、とても明るく、落ち着いた色調で仕上げられており、掲示物などの装飾は極力無駄を排除したものとなっている。また、衛生面にも配慮しているとのことで、室内、水回り関係とも、異臭等は一切感じられなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルとは別にホールにソファを置いてある。食事以外のときやテレビを見るときなど自然に集まっている。席も自然と決まっており、お茶を飲みながらおしゃべりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものや思い出のものを持ってきていただくようお願いしている。写真を貼ったり者の配置など本人と話しながら配置を決定している。	居室の基本的な設備としては、ベッド、洗面化粧台、クローゼットとなっている。寝具や家具、調度品については、今まで使用してきた慣れ親しんだものを持参してもらうよう話をしている。また、写真などを貼って、居心地のよい空間づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	出来ること、わかることを把握し、自立した生活を送れるように工夫、支援している。		